

矢部清流学園

学校だより 8号



# 善遊善学

学校教育目標 ふるさと矢部を愛し、未来を拓く学力と健康な体を持ち、共に伸びる児童・生徒の育成～学校地域家庭をつなぐ「総がかりの教育」の推進～

重点目標 自分の思いや考えを仲間とつなぎ、広げていく子どもの育成  
～ つなごう・広げよう～

令和4年9月22日 文責 古川 志乃

## Willkommen Yabe! ようこそ矢部へ!

矢部清流学園に新しい仲間が加わりました。ドイツ(ベルリン)から移住してこられた國武ファミリー。2年生に梅千代さん、6年生にアトレイユさんが転入。お母様が日本人(久留米出身)でお父様がドイツ人なのですが、この度、日本への移住を考えられ、ドイツからインターネットで調べ、移住先について検討されていたそうです。そのような中、奥八女の自然環境の素晴らしさ、矢部清流学園のHPに映し出された学校の様子に大変興味を抱かれ、2週間の体験入学を申請されました。ドイツで生活してきたので日本語の理解力は十分ではありませんが、明るく前向きな2人は、矢部清流学園の優しく温かな子ども、先生方に囲まれて、楽しい学校生活をスタートさせることができました。

また、矢部支所長をはじめ、矢部の方々が親身になって対応されたことで、矢部への移住を決められました。本当に嬉しい限りです。これから55名で仲良く、

そして、ますます充実した学校生活を過ごしていきましょう。異なる文化を理解し、受け入れ、そして、共に新たな文化を築いていくことは人と人とが共存していく中でとても大切なこと。これからも、違いを認め合いながら、それぞれの個性を大切に、共に輝くことができる関係を築いていきましょう。



アトレイユさんに、校内を案内してまわる6年生



梅千代さんの歓迎会(2年) 黒板いっぱい似顔絵

## 9年生「八女茶里学 碾き臼体験学習」 9月16日(金)

9月16日(金)、星野村の茶の文化館にて、9年生は「八女茶学」の一貫「碾き臼体験学習」を行いました。茶の文化館の古賀館長さんから、多くのことを教えていただきながら、茶葉を臼で碾いて抹茶を作り、そして、碾いた抹茶を茶筌でたてておいしくいただきました。

また、文化館内にある本格的な茶室「残月の間」「妙見庵」も見学しました。  
【生徒感想より】

・初めて抹茶を臼で碾いた。色が薄緑になるのは、茶葉がとて小さくなっているためだと知って、驚いた。碾き臼で碾くのがとても楽しかった。また、茶菓子を食べる理由(おなかかびっくりしないため)や茶碗を回す理由、礼儀などのお話を聞けて、とても勉強になった。お茶をたてる時には、茶筌を縦に動かしてまぜることや、泡が大きいものをつぶす等のたて方を知れてよかった。今日知ったことを、親や後輩にも伝えたい。八女は23年連続で玉露の生産地賞を受賞していることを知り、とてもうれしかった。(AM)

### つなごう



・碾き臼体験を初めてした。てん茶からとても細かい緑色の粉に変わったのですごくいいと思った。碾き臼の仕組みや黄緑色に変わる秘密を教えていただいたり、道具を使ったりして、昔の人の知恵がたくさん詰まっていたいいなと思った。一杯のお茶をつくるのに、たくさんの労力と時間がかかっていることを改めて感じる事ができたので、これからは感謝して飲むようにしたいと思った。

茶道には、相手に対して敬意をはらうために茶碗を回したり、茶室に入る時に頭を下げたりするルールがあり、とても良い文化だと思った。(TK)

### 広げよう